

# 富士山利用者負担制度の検討状況

富士山利用者負担専門委員会

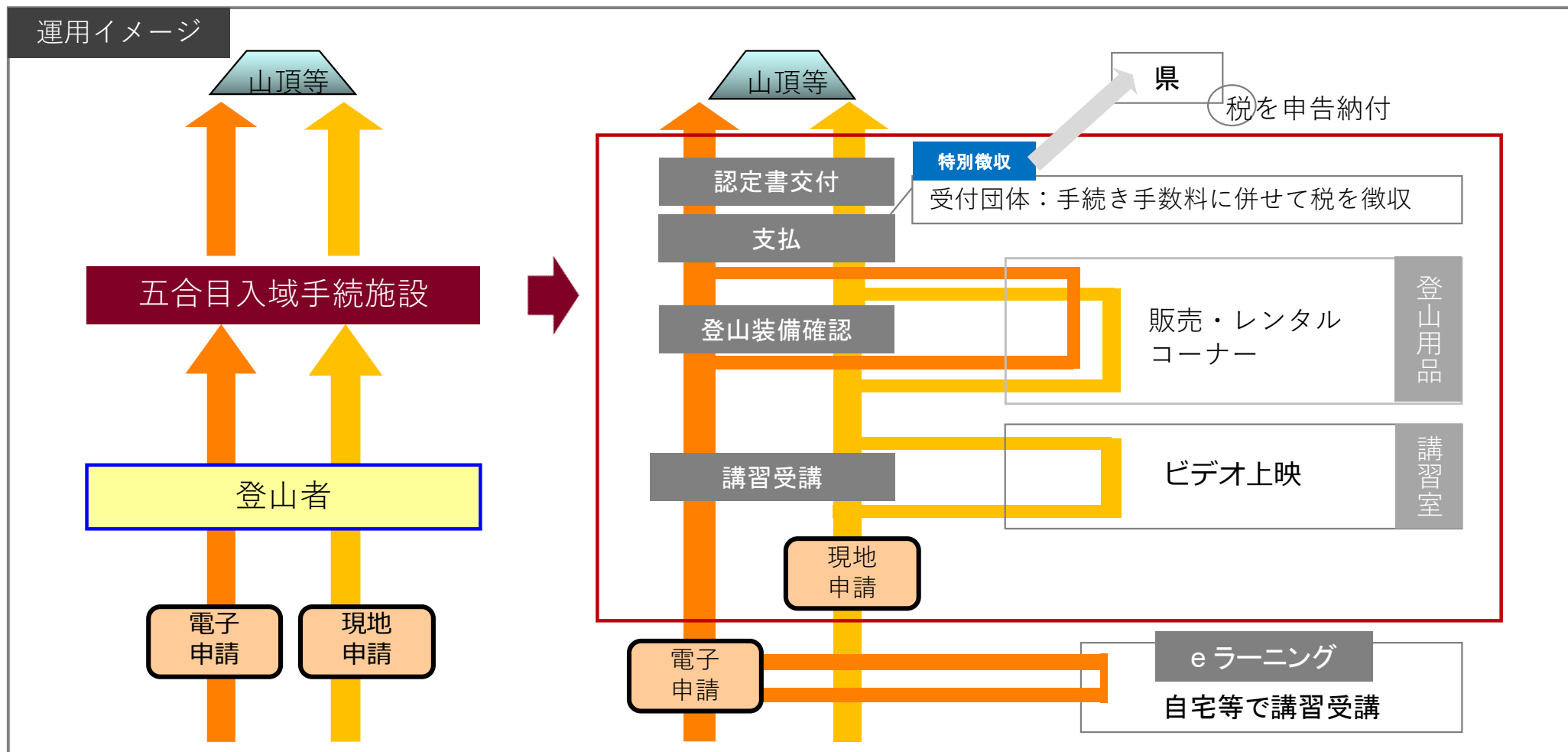
令和5年2月

## 義務化検討の経緯

H30	富士山世界文化遺産協議会作業部会等から、 <b>義務化や対象者の拡大など、保全協力金制度の見直しを進めるべきとの意見有り</b>
R1	富士山世界文化遺産協議会で <b>義務化を基本とした利用者負担制度の検討を開始することを決定</b>
R2	富士山世界文化遺産協議会で具体的な検討方針を決定 ➤ 受益と負担の関係が明確であり、既存の保全協力金制度からの円滑な移行が期待されるため、「 <b>五合目から先に立ち入る来訪者</b> 」を対象とする（「五合目観光客」は、次の段階の検討対象とする） ➤ 複数案を比較検討し、 <b>五合目から先に立ち入る際に講習受講等の一定の条件を付す「条件付入域制度」を前提とした「法定外目的税」の導入を候補とする</b> ➤ 税額及び具体的用途については、制度概要が定まった後検討
R3～	条件付入域制度の具体的な内容の検討

## 条件付入域制度の概要

- ・五合目から先に立ち入る際に事前予約や講習受講等の条件を付し、入域手数料に併せて税を支払う仕組み
- ・財源確保に加え、富士山の環境保全や、登山者の安全確保、登山の快適性を図ることができ、導入効果は大きいと考える。



## 課題と今後の方向性

### 明確化された課題

項目		説明
技術的課題	コスト等	<ul style="list-style-type: none"> <li>入域に係る事務事務の<b>コストが大きい</b> (開山期間中に24H受付の場合、4登山口合計で概算3億円程度 ※前提条件が変わればコストは増減する) (参考1)</li> <li><b>未手続者の入域防止が困難</b> (参考2)</li> </ul>
	運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地で<b>運営を担う専門性の高い団体が必要</b></li> <li>手続場所の確保や、雨天時の待機スペースが必要</li> </ul>
	法令	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山道の利用に条件を付すことについて、道路法上の調整が必要</li> </ul>
政策的課題	利用の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>入域手続制度の導入は<b>人数制限につながる可能性があり、富士山の利用の在り方(富士登山の在り方)について地元関係者の理解を含めた考え方の整理が不可欠</b></li> </ul>
	負担の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>誰が、どの程度の金額を負担するのが妥当かについて、富士山の保全・活用に関する、民間の活動も含めた全体コスト及び経済効果等の把握が必要</b></li> </ul>

### 今後の方針

- **更なる調査研究及び関係者との関係者との意見交換を進める**
- **デジタル技術等新技術の活用も視野に、技術的課題に関して引き続き調査研究**
- **専門性の高い民間団体(財団等)による安定的な運営について調査研究**
- **富士登山の在り方について、関係者との意見交換を行う**

### その他主要意見

- ◆ **富士山保全協力金制度は、富士山の**保全意識の醸成**や協力金を原資とした**環境保全・安全対策の充実**が図られるなど、**大きな成果**が認められることから、**協力を一層促進**するため、**制度の改善**に取り組んで欲しい。**

## 協力金制度の改善等

### 1 考え方

現行の富士山保全協力金制度は、富士山の**保全意識の醸成**や協力金を原資とした**環境保全・安全対策の充実**など、**大きな成果**が認められることから、**協力を一層促進**するため、**制度の改善**に取り組むとともに、寄附の促進等財源確保の多様化も図っていく。

### 2 想定される協力金制度改善案

方向性	取り組み
「世界遺産富士山を守り伝える」意識啓発	・ 協力金の意義の広報の充実 等
協力金支払い者の賛同をより得られる用途への拡大	・ 質の高い登山体験に資する事業への充当 ・ 新しいニーズに対応した事業への充当 等
協力金を応援したくなる仕組み	・ 民間企業の協力を促す仕組みづくり ・ 登山者への魅力的なインセンティブ 等

### 3 登山者に限定されない財源確保の多様化

方向性	取り組み
多様な財源確保に向けた情報発信	・ クラウドファンディングやふるさと納税等の寄附の促進

## 参考1 条件付入域制度手続き実施コスト

	山梨県（吉田）	静岡県（富士宮・御殿場・須走）
期間	7/1～9/10 72日間 24H	7/10～9/10 63日間 24H
最大通過 人数/時間	900人	533人（富士宮）、300人（御殿場）、248人（須走）
体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4：00～20：00 11人               <ul style="list-style-type: none"> <li>・誘導・受付4人</li> <li>・講習3人</li> <li>・出納員3人</li> <li>・責任者1人</li> </ul> </li> <li>●20：00～4：00 6人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4：00～20：00 3登山口計19人               <ul style="list-style-type: none"> <li>・誘導・受付 各口2人</li> <li>・講習 各口1～2人</li> <li>・出納員 各口2人</li> <li>・責任者 各口1人</li> </ul> </li> <li>●20：00～4：00 各口4～5人</li> </ul>
施設	五合目総合管理センター	富士宮口は五合目来訪者新施設建設が予定されているが、御殿場・須走口は施設の確保が必要
概算費用 人件費・宿泊費等	約1億円	約2億円

※完全捕捉のために、別途、高額のコストを要することが想定される。



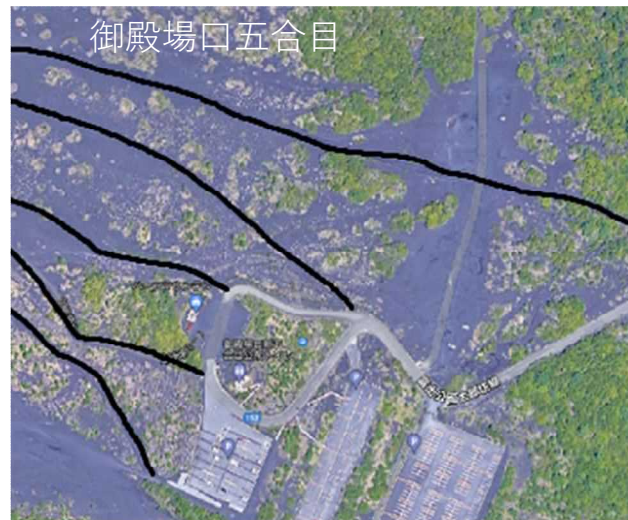
## 参考2 五合目地図

富士宮口五合目



- ・新来訪者施設が建設されると、来訪者の動線コントロールがし易くなることが期待される。

御殿場口五合目



- ・複数の動線があり、完全捕捉のためには、多額の経費を要することが想定される。

須走口五合目



- ・静岡県側の他の登山口に比べると、動線は限られている。

吉田口五合目



- ・六合目安全指導センター付近で、すべての道が合流する。

## ○委員からのその他意見

### (技術的課題)

- ・ 条件付入域制度導入は総論では賛成だが、**金額設定、雨天時の待機スペース等、課題がある。**
- ・ コンパスやヤママップ等のアプリがあり、**デジタル技術の活用**の余地がある
- ・ 高額な徴収コストが課題なら、**デジタル技術活用の研究**の余地がある
- ・ **冬山期間も徴収すべきだが、コストと捕捉の面で難しい。**
- ・ 行政の発想だけではなく、民間を活用するということは、硬直化の改善に繋がる。
- ・ 民間の方が企業への寄附依頼など、資金をダイナミックに集めやすい。

### (政策的課題)

- ・ コロナ影響調査によれば、富士登山に関心がある方の間で、**事前予約制の賛成が多い。少しずつでも事前予約制の導入を進められると良い。**
- ・ 利用の在り方の検討に際しては、自然公園法に基づく公園計画との調整が必要である
- ・ 登山の在り方は大きな課題であり、**誰が検討主体となるか、整理が必要である**
- ・ 経済効果の試算をすることで、地元負担意識が働き、実態把握にも繋がる。富士山があることの経済的利益が見せられると良い。

### (協力金制度の改善)

- ・ 自由度、柔軟性を増し、**新しいニーズや課題に対応出来るよう協力金制度を改善していく**という方向性は良い。
- ・ 「高額な実施コスト」「協力金の使途の膠着化」という課題に答え、前進して欲しい。
- ・ **協力して良かったと思える仕掛けが大事。**協力のインセンティブを働かせるコストが、どの程度かかるかの検討も必要。